

一般質問通告書

受領日時 令和7年2月26日 午前・午後 10時55分 1番 氏名 小玉 正範

質問項目	質問の要旨
1 新町長の公約について	<p>(1) 新町長は、その公約の中で「防災の活性化で根底から強い町へ」とうたっていて、大変大事であると同感するが、人口減少が進む町として、並行して取り組むべき課題に、五城目町に住むメリットや魅力をどうやって作っていくのか。特に、強調したい点は何か。</p> <p>(2) 町長の言葉に、「主役は町民、力を結集して五城目の底力を！」とある。その実現に非常に期待しているところだが、力を結集するには、人材を発掘し結びつける工夫が必要だと思われる。しかし、町には貴重な人材が埋もれているようである。このような人材の発掘から活用についての考えをお聞きしたい。</p> <p>(3) 町の全面積の8割以上を占める森林を元気にするとの公約があるが、その具体的な方策は。私は昨年、私有林を町が購入した方が、管理がしやすく活用範囲が広がるのでは、と提案しているが、新町長の考えは。</p>
2 国の地方創生に関連して、町の振興対策は	<p>(1) 最近、テレビCMの中にキイチゴを使用したお菓子を大々的に宣伝しているものがある。五城目町の特産品の一つであるキイチゴについて、生産量や使われ方についての資料はあるのか。年々需要が増しており、生産が追いついていないとの話を聞いたが、そのような状況なら、町として援助することで、キイチゴ農業振興のきっかけになる可能性があるのではないか。</p> <p>(2) 本年は、朝市サミットが本町で開催されると聞いている。2014年にもすでに本町で開催されているため、さしたる問題にならないのだろうが、およそ10年前とは商店街の様子が変わっているのではないか。通りに3つあった銀行の2つは移転し商店街からはなくなっている。朝市サミットを契機に商店や町の施設を活かし、町の活性化を促すための方策は。</p> <p>(3) 最近ほどの業種も労働力不足といわれている。それを補うために、県としては外国人材活用を促進する対策として、昨年6月に県内企業等の外国人材の受け入れを支援する「秋田県外国人材受入サポートセンター」を開設した。外国人材の活用は他県に比べ、秋田県は非常に遅れている。従業員不足を訴える企業が町にも少なからずある。町として外国人材活用促進のための対策を検討する考えはないか。</p>

<p>3 若者定着への 対策</p>	<p>(1) 若者が町へ定着する際のメリットの一つとして、これからマイホームを新築しようとする若者へ、土地の購入資金を助成する等、何かしらの呼び水になる施策はできないか。秋田市と比較して格段に土地を購入しやすくすれば、ベッドタウンとしての価値も出てくる。隣の町では町有地の分譲を格安で行っている。参考にできないものか。</p> <p>(2) 町長の公約の中に、時代と地勢にあった企業誘致とある。それは大事な要素だが、町外の人でも雇用できるような魅力的な職場を提供することを目指し、それにふさわしい企業の誘致を検討していただきたいが、可能性はどうか。</p>
<p>4 その他の課題 について確認</p>	<p>(1) 昨年末に、町の中心街へ熊の親子が出没した。早朝や夕方時間帯だと聞き、その時間帯に外に出ることを控えている町民は少なからずいる。実際に年末年始、帰省した家族が全く町の中を歩くことができなかった、という話も聞いている。その後も出没があったようだが、まだ捕獲したという話は聞かれない。早朝や夕方に安心して散歩できるようにするために、今後の対策はどのようなものか。</p> <p>(2) 昨年9月にも質問しているが、五城館ホール2階にある町民からの寄贈である貴重な蔵書、石川文庫は、私が指摘してから半年が経過したが、まだ、そのままである。今後どうする予定か。</p> <p>(3) 若者の出会い対策について、2年前までは、積極的に出会いの場を提供していたが、本年度は実施していない。自由時間の確保が難しい若者に、充実した人生への希望をもってもらうためにも、このままでいいわけではない。また、無理に狭い町内での出会いにこだわる必要もない。県南のある市には、特定の「マッチングアプリ」の利用料の一部を助成するなど、対策をしている自治体はあるが、本町として今後どのようなことが検討されるか。</p>